

## 元八事散策マップ 編集後記

澤田 ゆう子

佐治學氏が纏めた「旧八事村の遺跡を訪ねて」をもとに「元八事探索マップ」を作成することになりました。3人が担当となり、佐治氏を中心に概ねコースもでき、史跡を歩くことから始まりましたが、佐治氏は病魔で離脱することになりました。混乱しましたが、佐治氏の意向を組み、担当者を再編成し作成を続けることとなりました。地域を歩くことで、たくさんの方の協力をいただき、新しい発見が多くありました。

一つは、江戸時代の資料提供でした。おかげで、3つの神社と2つの寺院を巡る盛大な祭りがあり、「お神楽」「獅子舞」「棒の手」が3つの神社で奉納されていたということが分かりました。当時の姿を留める神社は合祀され、史跡として石柱が建つのみになっています。合祀後は新しい社が建ちました。当時の2か寺も元の場所にはありませんが、引っ越しして元八事地区に残っています。八幡社跡地碑の説明看板



また、上八事第二公園の南西の角に祀られている「馬頭観音」は、大正時代に平針と熱田を結ぶ馬荷業者仲間が道中の安全を祈り建立したものであることをお聞きしました。今でも馬荷業者ご子孫の方が個人で守っておられます。静かな住宅街ですが、かつては、荷を運ぶ馬の往来があったことに驚きました。



そして、仏地院の観音堂の奥に「那智さん」と呼ばれる石仏があることを地元の方に教えていただきました。最近まで、地区の祠に祀られていたが、現在はありません。この石仏は、地区が不幸から立ち直る原動力となりました。「那智さん」を祀る祠に集まり、会食し、余興を楽しむことで、地区が一つになり復興していく姿は、今、各地で起こっている災害から立ち直るにはコミュニティが大事なことを語っているような気がしました。

仏地院の観音堂

「八事赤土の里」の石柱は個人のお宅の敷地内にあるもので、撤去予定だったものをご厚意でそのまま残していただくことになりました。温かいお心にお礼の気持ちでいっぱいです。

私の中では、古い資料を繙き今に生きる方々の話しを聞くことで、平面であった地図が奥深い立体感のある「元八事」の村に変わっていきました。

文面にも書きましたが、その時代のものが残っているものはありません。当時のようすを豊かに想像し楽しみながら散策していただければ幸いです。

最後に、マップ掲載にご協力いただいた史跡の関係者の方々、地元の情報提供をして下さった方々、励まして下さった地元の方々、支援してくれた歴遊会ガイドボランティアの仲間に心より感謝したいと思います。